

今日のキーワード インドは今月の「利下げ」が濃厚（インド）

インド準備銀行（中央銀行、RBI）は、今年1月、3月、6月に「利下げ」を行い、政策金利を現在7.25%としています。物価がRBIの目標である年+6%（2016年1月時点）を下回り、安定していることが背景です。ラジャンRBI総裁は、6月に物価が上振れたことなどから8月の前回会合で政策金利を据え置きとしましたが、足元では追加「利下げ」期待が高まっています。

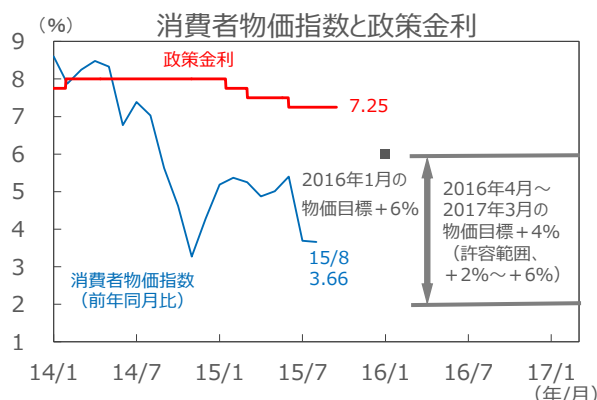
ポイント1 物価安定で「利下げ」期待が高まる

次回会合の29日を前に、臨時に実施するとの見方も

- 14日に発表された8月の消費者物価指数は、前年同月比+3.66%（7月は同+3.69%、6月は同+5.40%）と、当面の物価目標を大きく下回りました。昨年高騰した食品価格が比較的落ち着いていることや、原油安、景気過熱感が無いことなどが、物価安定の背景です。
- 2カ月連続で物価上昇率が3%台にとどまったことを受け、今月29日の会合で「利下げ」を実施するとの見方が濃厚です。また一部では、予定よりも前に臨時会合を開催して「利下げ」を実施するとの見方もあります。

ポイント2 一部に物価上振れの兆し 農産物高騰とルピー安の判断に注目

- 消費者物価指数の前月比で野菜価格の足元の状況を見ると、8月は+8.5%と高い伸びになりました。モンスーンシーズン（6月～9月）の降雨量が例年より少ないため、不作の農産物の価格上昇が警戒されます。また、為替市場で進んでいる米ドル高インドルピー安も物価上振れ要因になりそうです。
- 次回の会合では、足元の物価安定から利下げ実施が濃厚ですが、農産物高騰とルピー安へのRBIの判断がその先の政策を見極める上で重要といえます。



(注) 政策金利は、2014年1月1日～2015年9月16日。
消費者物価指数は2014年1月～2015年8月。
(出所) Bloomberg L.P.、インド準備銀行（RBI）のデータ
を基に三井住友アセットマネジメント作成



今後の展開 米国金融政策をにらみながら、利下げにより景気を支援

■米国の利上げ見送りは目先のルピー高要因

RBIの金融政策を見る上では、本日発表される米公開市場委員会（FOMC）の決定内容や今後の政策の示唆などが重要な注目点です。利上げが見送られ、米ドル安ルピー高になる場合には、RBIの利下げに対する期待がさらに高まると思われます。

■利下げが景気を支援

インドの4-6月期実質GDP成長率は前年同期比+7.0%となりました。物価の安定とRBIの利下げが個人消費などを支えています。利下げは短期的にルピー安要因ですが、景気下支え効果に注目が集まれば、ルピーにプラスになると期待されます。

ここも チェック!

2015年 9月 4日 インドで大規模ストライキ、市場への影響は限定的
2015年 9月 1日 「GST」に期待を寄せるインド企業（インド）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。